

令和元年度

# 佐潟周辺自然環境保全計画評価シート



令和元年度佐潟市民探鳥会の様子

佐潟で活動する事業等の令和元年度取り組み評価シート

表. 第4期佐潟周辺自然環境保全計画の目標と取り組み項目一覧

基本的な方針	目標	取り組み項目	
<p>【基本的な方針Ⅰ】</p> <p>生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の手が加えられていたように、人の関わりがなかで多くの動植物が生息・生育する環境を守り育てていく。</p>	<p>目標(1)多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり</p>	<p>ア 潟固有の水生植物が生育しやすい環境をつくる</p> <p>イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる</p> <p>ウ 外来動植物が生息・生育しないための効果的な駆除対策を行う</p> <p>エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる</p> <p>オ 魚介類が生息しやすい環境をつくる</p> <p>カ ブラックバスなどを入れさせない防止活動を進める</p> <p>キ ゾーニングの手法を用いて守り育てる環境保全方法を検討する</p>	
	<p>目標(2)佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全</p>	<p>ア 緑地帯を保全する</p> <p>イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する</p> <p>ウ 適正な水位管理を実施する</p> <p>エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う</p>	
	<p>目標(3)調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進</p>	<p>ア モニタリング調査を継続して実施する</p> <p>イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する</p> <p>ウ 潟の研究を多面的にすすめる</p>	
	<p>【基本的な方針Ⅱ】</p> <p>先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。</p>	<p>目標(4)昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり</p>	<p>ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する</p> <p>イ 地域文化を発掘、継承し、発信する</p> <p>ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る</p> <p>エ 佐潟及び佐潟周辺地域を核とした持続可能な地域づくりを推進する</p>
	<p>【基本的な方針Ⅲ】</p> <p>市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的に連携する。</p>	<p>目標(5)福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進</p>	<p>ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる</p> <p>イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる</p>
		<p>目標(6)佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開</p>	<p>ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する</p> <p>イ ラムサール条約登録湿地間の連携、ガンカモ類保護ネットワークの構築を行う</p>

基本的な方針 I



生態系の変化や水質汚濁など、環境上の諸問題に対しては、佐潟の自然環境が持つ浄化能力を活かした方法で解決することを基本としながら、かつて里潟として人の

目標 (1) 多種多様な動植物が生息・生育しやすい環境づくり





取り組み項目：ア 潟固有の水生植物が生育しやすい環境をつくる

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
ハスの生育調査	2年前から激減したハスの生育状況調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	下潟では今年もハスの生育が確認できなかった。	ハスが激減した原因は水質の悪化や外来生物の影響、水位管理の変化などが考えられるが、それらを調査し、改善方法を提案する。	(公財)新潟県都市緑花センター
エコトーン整備	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)	デンジソウやヤナギトラノオなどの生育が確認できたが、水中の環境下では確認できなかった。	エコトーンに近づけるよう周囲を整備する他、希少種については表示を行い、環境教育につなげる。	(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査	佐潟に自生する希少植物(ヤナギトラノオやミズアオイなど)の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	多年草であるヤナギトラノオやサデクサ、スジヌマハリイは確認できたが、一年草であるオニバスは確認できず、ミズアオイは「さかたん」が行われている水辺周辺でしか確認できなかった。	希少種の生育状況を確認することでその環境の多様性が維持されているかをチェックできる。	(公財)新潟県都市緑花センター
佐潟水門前の底質調査とポンプを用いた泥の排出試験	佐潟に堆積した泥を効率的に排出するため、水門前に堆積した泥の調査及びポンプを用いた排出試験を行った。		令和元年4月10日、 令和元年4月16日、 令和元年9月15日、 令和元年10月9日 (計4回実施)	【調査内容】 ①水門前の湖底の泥の堆積状況を調査 ②ポンプを用いた泥の排出状況を調査【調査結果】 ①水門付近には22～183cmの厚さの泥が堆積していることを確認 ②水門前に砂礫質の固い堆積物があり、泥の排出を阻害していることが判明 ③ポンプを用いた水圧では、砂礫質の堆積物の除去は難しかった。	砂礫質の堆積物を除去することにより、水門付近の泥を水門のドロばきを用いて排出できる可能性が示唆された。令和2年度は水門前に堆積した土砂を手去する予定で、土砂撤去後に改めて泥の排出試験を実施する。	環境政策課
佐潟の水質を考える意見交換会の開催	佐潟水門前の調査結果を地域関係者等と共有し、次年度以降の活動方針の参考とするために意見交換を行った。	 	令和2年2月29日	【開催場所】西区赤塚公会堂 【参加人数】26人 ○地域の農業関係者、漁協関係者をはじめ、多くの方から参加いただき、積極的な意見交換を行った。	意見を踏まえ、魚類のふ化が終わる5月末頃に佐潟の水位を落とし、ハスやオニバスといった水生植物の発芽・発育を促すことを検討することとした。 また、意見交換会は今後も継続的に開催することとした。	環境政策課

取り組み項目：イ 希少動植物をはじめとして、生物多様性の豊かな環境をつくる



事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
エコトーン整備 【再掲】	自然生態観察園に設置したエコトーンの整備と活用を行う。		6月～10月 (月1回程度)	デンジソウやヤナギトラノオなどの生育が確認できたが、水中の環境下では確認できなかった。	エコトーンに近づけるよう周囲を整備する他、希少種については表示を行い、環境教育につなげる。	(公財)新潟県都市緑花センター
希少植物の調査 【再掲】	佐潟に自生する希少植物(ヤナギトラノオやミズアオイなど)の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	多年草であるヤナギトラノオやサデクサ、スジヌマハリイは確認できたが、一年草であるオニバスは確認できず、ミズアオイは「さかたん」が行われている水辺周辺でしか確認できなかった。	希少種の生育状況を確認することでその環境の多様性が維持されているかをチェックできる。	(公財)新潟県都市緑花センター

取り組み項目：エ 鳥類が生息しやすい環境をつくる



鳥類標識調査	環境省管轄(山階鳥研主導)の全国的な渡り鳥調査に参加し、定期的に実施する。		令和元年4月中旬～5月下旬、10月中旬～11月上旬	4・5月に7日間、10・11月に9日間作業を実施し、モニタリングデータを得た。	春の調査で13種47羽、秋の調査で21種744羽を放鳥し、15例の回収記録を得た。小鳥類の数・種類の減少が顕在化していることがわかった。参加調査メンバーの老化と若い担い手不足が調査の継続を危うくしている。	佐潟鳥類標識グループ
佐潟パトロール	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日	6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車4台発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課

目標（２）佐潟及びその周辺を含めた地域環境の保全




取り組み項目：ア 緑地帯を保全する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
西区佐潟公園樹木芝生等管理業務委託	公園を構成している植物の生理・生態的特徴を十分理解して健全な育成を図り、植物空間の充実・完成をさせ、公園機能を維持するために技術的管理を行う。	 	平成31年4月25日から令和2年3月16日まで	平成31年4月25日から令和2年3月16日までの期間に樹木芝生等の維持管理を継続的に実施した。	植物の健全な育成に必要な維持管理を行うことで、公園機能を確保し、公園利用者への環境整備を図った。	西区建設課

取り組み項目：イ 佐潟の水質を現在より少しでも改善する




水質調査	佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を行う。		毎月1回	佐潟5カ所、御手洗潟3カ所について毎月1回水質測定を実施した。水質測定結果を市HPIに掲載。	水環境の把握とともに保全のための基礎資料とする。	環境対策課
佐潟水門前の底質調査とポンプを用いた泥の排出試験【再掲】	佐潟に堆積した泥を効率的に排出するため、水門前に堆積した泥の調査及びポンプを用いた排出試験を行った。		令和元年4月10日、令和元年4月16日、令和元年9月15日、令和元年10月9日（計4回実施）	<b>【調査内容】</b> ①水門前の湖底の泥の堆積状況を調査 ②ポンプを用いた泥の排出状況を調査【調査結果】 ①水門付近には22～183cmの厚さの泥が堆積していることを確認 ②水門前に砂礫質の固い堆積物があり、泥の排出を阻害していることが判明 ③ポンプを用いた水圧では、砂礫質の堆積物の除去は難しかった。	砂礫質の堆積物を除去することにより、水門付近の泥を水門のドロばきを用いて排出できる可能性が示唆された。令和2年度は水門前に堆積した土砂を手去する予定で、土砂撤去後に改めて泥の排出試験を実施する。	環境政策課

取り組み項目：エ 佐潟及び御手洗潟を一体的にとらえ、その周辺を含めた広域的な保全を行う

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟周辺自然環境保全連絡協議会の開催	佐潟に関わる団体や有識者から出席いただき、佐潟に関する様々な取組みの報告や保全と賢明な活用に向けた検討を行う。	  	令和元年7月30日(火) 令和2年3月	令和元年7月30日に第29回佐潟周辺自然環境保全連絡協議会を開催した。 令和2年3月26日に第30回自然環境保全連絡協議会を书面開催した。	佐潟水門前に底質調査とポンプを用いた泥の排出試験の調査結果に基づき、意見交換会を開催した。水門付近の泥の撤去方法が協議された。	環境政策課

目標（3）調査・研究結果の有効活用による自然環境保全の推進

取り組み項目：イ 市民団体などと連携し、動植物の生息・生育状況を調査する

新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和元年10月～令和2年3月	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、活動内容や調査結果を本市のホームページでも紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。	環境政策課
希少植物の調査【再掲】	佐潟に自生する希少植物（ヤナギトラノオやミズアオイなど）の調査を行う。		6月～10月 (月1回程度)	多年草であるヤナギトラノオやサデクサ、スジヌマハリイは確認できたが、一年草であるオニバスは確認できず、ミズアオイは「さかたん」が行われている水辺周辺でしか確認できなかった。	希少種の生育状況を確認することでその環境の多様性が維持されているかをチェックできる。	(公財)新潟県都市緑花センター
身近な水環境の全国一斉調査	世界環境デーにあわせて、全国一斉に河川や湖沼の水質を調査		毎年6月第一週の日曜日前後	今年も佐潟、御手洗潟は、新潟市内の河川、湖沼の中で、最もCODの高い結果であった	水質悪化を防ぎ、少しでも水質を良くするため、潟周辺の農業関係者、新潟県の担当者を入れた体制強化を図らなくてはならない	新潟水辺の会

## 基本的な方針Ⅱ

先人の知恵に学び、現代の社会情勢にあった賢明な利用を目指し、地域文化に根ざした魅力ある地域づくりを推進する。

目標（４）昔から培われてきた賢明な利用の推進及び、佐潟やその周辺地域を核とした地域づくり

取り組み項目：ア 地域住民による潟の賢明な利用を推進する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
ラコテ赤塚	6月、8月は佐潟水門下のごみ拾いを行う。 7月は旧保育園水路沿いのごみ拾いを行う。	 	令和元年6月2日(日) 令和元年7月15日(日) 令和元年8月4日(日) 令和元年9月15日(日)	6月30日に予定した作業は悪天候のため中止となった。他の作業は予定通り実施できた。	当会の作業を見かけた地域住民から声を掛けられるようになった。	佐潟と歩む赤塚の会
佐潟クリーン活動	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		令和元年6月27日 令和元年10月7日	6月は、企業の方が刈った草や佐潟周辺のごみを中学生と小学6年生が協力して片づけた。また、佐潟の縁の泥上げをした。10月は、地域の方が佐潟公園の花壇を耕耘していただき、中学生がチューリップの球根を植えた。	中学生と小学6年生が協力して実施することで、活動の連続性が生まれ、佐潟の環境保全への意識が高まった。NPO団体や企業、地域と連携することで、学校単独では難しい活動も実施することができた。	赤塚中学校
佐潟クリーンアップ活動	ドロ上げ、ヨシ刈りなどを通して佐潟の現状を確認する。またトバスなどの潟の産物を味わう。	  	令和元年9月21日(土)～22日(日)	2日間で地元中学生、企業などの協力を得て延べ120人ほどが保全活動に参加した。	一昨年から取り組みを始めた植物の多様性を目指して自然生態観察園の整備にも取り組んだ。	佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和2年3月22日(日)	新型コロナウイルスの影響を受けて中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため	佐潟と歩む赤塚の会
佐潟パトロール【再掲】	上潟及び下潟において、都市公園条例にて禁止されているルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施する。	  	6月から11月の土休日	6月から11月の土休日にルアー釣り条例違反者に対し、監督・指導を行うため、パトロールを実施した。	釣り人と思われる車4台発見し、駐車車両へ注意の張り紙を行った。	西区建設課

取り組み項目：イ 地域文化を発掘、継承し、発信する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
ラコテ赤塚 【再掲】	6月、8月は佐潟水門下のごみ拾いを行う。 7月は旧保育園水路沿いのごみ拾いを行う。	 	令和元年6月2日(日) 令和元年7月15日(日) 令和元年8月4日(日) 令和元年9月15日(日)	6月30日に予定した作業は悪天候のため中止となった。他の作業は予定通り実施できた。	当会の作業を見かけた地域住民から声を掛けられるようになった。	佐潟と歩む赤塚の会
佐潟クリーン活動 【再掲】	関係団体、企業、地域の方々と協働して、佐潟のクリーン活動及び緑化活動を行う。		令和元年6月27日 令和元年10月7日	6月は、企業の方が刈った葎や佐潟周辺のごみを中学生と小学6年生が協力して片づけた。また、佐潟の縁の泥上げをした。10月は、地域の方が佐潟公園の花壇を耕耘していただき、中学生がチューリップの球根を植えた。	中学生と小学6年生が協力して実施することで、活動の連続性が生まれ、佐潟の環境保全への意識が高まった。NPO団体や企業、地域と連携することで、学校単独では難しい活動も実施することができた。	赤塚中学校
佐潟クリーンアップ活動 【再掲】	ドロ上げ、ヨシ刈りなどを通して佐潟の現状を確認する。またトバスなどの潟の産物を味わう。	  	令和元年9月21日(土)～22日(日)	2日間で地元中学生、企業などの協力を得て延べ120人ほどが保全活動に参加した。	一昨年から取り組みを始めた植生物の多様性を目指して自然生態観察園の整備にも取り組んだ。	佐潟と歩む赤塚の会
春の潟普請 【再掲】	上潟を中心に散策しながらゴミを回収する。	  	令和2年3月22日(日)	新型コロナウイルスの影響を受けて中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため	佐潟と歩む赤塚の会



取り組み項目：ウ 佐潟の資源を活用した地域経済・地域観光の活性化を図る



事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟昆虫館観察会	地元大学生を講師に佐潟周辺に生息するカブト虫などを小学生らと採集して生態について学習する。	  	令和元年7月27日(日)	参加者を自然生態園と園路ルート の2班に分け、地元大学の学生を 講師に実施した。下潟南側の昆虫 を観察後、センターのモニター画 面に昆虫を映し、佐潟で観察した 昆虫の振り返りを行った。	小学生に昆虫に関心を持ったもらう目的は達成できたのではないかと。定員16人に保護者などで計34人参加。リピータも多く毎年人気のイベントとなっている。捕獲した昆虫類のリリース、責任飼育を呼び掛けた。	佐潟と歩む赤塚の会
潟舟体験	潟舟で湖面に繰り出して五感で佐潟を感じる。ハス、オニバスなどの水性植物を観察する。	   	令和元年5月12日(日) 令和元年6月2日(日) 令和元年7月15日(日) 令和元年8月4日(日) 令和元年8月24日(土) 令和元年9月15日(日)	潟舟に乗船した市民は湖面からの 景観を堪能できた。強風、悪天候 で運行中止、日程変更が度々発生 した。	2016年夏を最後に湿地センターから眺める下潟周辺ではハスが姿を消した。ハスの衰退は水位管理、水質など複合的な要因が考えられるが、はっきりしない。ハス復活プロジェクトが20年春にスタートしたが、先行きは見通せない。	佐潟と歩む赤塚の会
ハクチョウ観察会	ハクチョウの飛び立ち、罨入りを観察する。	   	令和2年1月18日(土)	地域活動で連携している新潟大学Eホームの学生らとハクチョウの罨入りを観察した。	観察会前に地元の農家の方が作業小屋で開いていた佐潟周辺で撮影した野鳥の写真展を鑑賞した。新たな交流の輪が広がった。	佐潟と歩む赤塚の会

基本的な方針Ⅲ



市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う田園環境都市として、福島潟・鳥屋野潟・瓢湖といった里潟と、地域で育まれた里潟文化の発信や保全の取り組みについて、広域的

目標（5）福島潟、鳥屋野潟、瓢湖などとの広域連携の推進

取り組み項目：ア 他の里潟との連携した市の鳥「ハクチョウ」が飛び交う水と緑のネットワークを活性化させる

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
第24回佐潟市民探鳥会	世界湿地の日の関連事業として、にいがた野鳥の会を講師に迎え、水鳥を始めとした冬鳥の観察会を開催する。		令和2年1月19日(日)	にいがた野鳥の会の会員を講師に迎え、グループに分かれて佐潟周辺を散策しながら野鳥の観察を行った。当日は天候もよく、82名の参加があり、50種類の鳥類を確認することができた。	事前のPR効果があり、当日は天候にも恵まれたため多くの方の参加があった。探鳥会を通して、佐潟の魅力を伝えることができた。	環境政策課
新潟県水鳥湖沼ネットワークとの連携【再掲】	新潟県水鳥湖沼ネットワークからの情報提供を受け、調査結果を本市のホームページでも紹介した。		令和元年10月～令和2年3月	毎週金曜日に市内4地点でハクチョウ、ガン類の飛来数調査を実施している新潟県水鳥湖沼ネットワークから情報提供を受け、活動内容や調査結果を本市のホームページでも紹介し、情報発信を行った。	本市に飛来するハクチョウの動向を随時発信することができた。	環境政策課

取り組み項目：イ 里潟の拠点としてラムサール条約湿地や里潟文化の魅力を発信し、他の里潟のラムサール条約登録推進につなげる







潟シンポジウムの開催	里潟の取り組みを多くの人に知ってもらうためのシンポジウムを開催した。		令和元年10月27日	みんなの潟学出版記念シンポジウム第2弾として、「持続可能な未来につなぐ人材を育てる」ESDをテーマに、新潟市の自然環境をどのように次世代に引き継いでいくのかを展望するシンポジウムを開催した。新潟国際情報大学中央キャンパスを会場に3部形式で開催した。	ESD研究の第一人者である東京農工大学の朝岡幸彦先生から基調講演をいただいたほか、市内の潟での活動紹介や里潟研究ネットワーク会議のメンバーを交えた座談会を開催し、参加者には里潟をフィールドとした活動の魅力を伝えることができた。	環境政策課
ラムサール条約湿地自治体認証への申請	環境省が公募を行ったラムサール湿地自治体認証に申請を行った。			環境省が公募を行ったラムサール湿地自治体認証に全国初となる申請を行った。	全国初となる公募に申請書を提出することができ、本市をPRする機会を得ることができた。認証後の本市の取り組みについて準備をすすめる必要がある。	環境政策課

目標（6）佐潟水鳥・湿地センターを拠点とした質の高い活動の展開

取り組み項目：ア 自然環境の保全に向けて、市民団体や行政などが連携・協力した環境教育、啓発活動や情報発信を推進する

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
佐潟自然散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察する。	 	毎月第2、4土曜日	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥や植物、昆虫を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟写真展	佐潟周辺の自然や景色の写真を公募し、展示する。	 	平成31年4月27日(土)～令和元年5月10日(金)	野鳥の楽園、自然豊かな佐潟を写真撮影した作品を募集し展示した。	自然の宝庫である佐潟周辺及び(西区、西蒲区)で撮影した写真を来館者に観ていただき感動を与えた。	佐潟水鳥・湿地センター
小鳥さえずる佐潟で春散歩	ボランティア解説員の案内で春の佐潟を散策し、野鳥を観察する。	 	平成31年4月28日(金)	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、春の小鳥の声や姿を観察した。参加者25名	参加者と野鳥を探しながら自然に関心に向け、佐潟の自然環境に生息する野鳥を観察しながら潟と自然の魅力を伝えた。季節の変化による自然情報を収集し、今後の活動推進に向ける。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟自然探検隊(さかたん)	小学生に佐潟の四季を体験してもらう通年企画で、第1回は田植えと潟舟体験の実施、第2回は植物と昆虫の観察会の開催、第3回は稲刈りとはぎ掛けの実施、第4回は冬鳥の観察を行う。	 	第1回：令和元年5月12日(日) 第2回：令和元年8月18日(日) 第3回：令和元年9月15日(日) 第4回：令和元年12月1日(日)	子供たちが佐潟での植物や生き物と触れ合うことで生活模様や潟環境を理解できた。参加者13名(小学2年から6年生)	生態系を大切にする心を身に着け、体験により自然を五感で感じ、大きな驚きと感動を与えられる自然体験活動である。これまでの佐潟、これからの佐潟を子供たちの目線からの体験により佐潟への思いや願いについても学習の財産となるように模索し子供育成に貢献した。	佐潟水鳥・湿地センター
初夏の植物観察会	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、初夏の植物を観察する。	 	令和元年6月9日(日)	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、初夏の植物を観察した。参加者24名	初夏の植物等の自然解説を聞きながら自然に親しみ自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
水辺の生きもの 観察教室	ボランティア解説員の案内で佐潟の水辺の生きものを観察する。	 	令和元年7月14日(日)	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、水辺の生きものを観察した。参加者14名(小学生)	佐潟周辺で見られる生きものを採取・観察し、水辺の生きものについて知ってもらい、自然環境の大切さを感じてもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
夏休み佐潟昆虫 観察会	新潟大学いきものサークルふかみどりの学生の解説で、佐潟の昆虫を観察する。	 	令和元年7月27日(土)	新潟大学いきものサークルふかみどりの学生の講師で、佐潟の昆虫を観察した。参加者16名(小学1年から4年生)	佐潟にすむ昆虫の観察を通じて、小学生に佐潟の昆虫に関心を持ってもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
スマートフォン 写真教室	スマートフォンで気軽に写真や動画撮影を楽しむコツを案内する。	 	令和元年8月4日(日)	NTTドコモショップスタッフを講師に佐潟の夏景色であるハスや植物をスマホを通して自然を体感した。参加者8名	スマホ操作のスキルアップと佐潟の自然風景を撮影し、季節を感じてもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
秋の虫を探そう	ボランティア解説員の案内で秋の佐潟の昆虫を観察する。	 	令和元年9月8日(日)	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、秋の昆虫を観察した。参加者27名	佐潟公園で昆虫を採取し、観察したり解説を聞きながら自然に親しみ、自然豊かな佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
秋の佐潟でオカリ ナコンサート	オカリナコンサートを開催する。	 	令和元年10月19日(土)	佐潟水鳥湿地センターでオカリナコンサートを開催した。参加者48名	冬鳥が飛来し始めた秋の佐潟を見ていただきながら済んだ音色のオカリナコンサートを開催することで、多くの市民から佐潟に足を運んでいただき、佐潟の冬鳥に関心を持ってもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
佐潟探鳥散歩	ボランティア解説員の案内で佐潟を散策し、野鳥を観察する。	 	11月～2月までの第2、4土曜日	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を散策し、野鳥を観察した。	佐潟ボランティア解説員の解説を聞きながら、佐潟の自然を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター
冬鳥ウオッチン グ	ボランティア解説員の案内で佐潟の冬鳥を観察する。	 	令和元年11月10日(日)	佐潟ボランティア解説員の案内で佐潟周辺を歩き、冬鳥を観察した。参加者25名	佐潟ボランティア解説員から冬鳥の解説を聞きながら野鳥観察を体験し、冬鳥が多く飛来する佐潟の魅力を感じてもらえた。	佐潟水鳥・湿地センター

事業名称	事業概要	SDGs 該当項目	R元年度事業			団体名
			開催日程	実施結果	効果と課題	
「私の佐潟」文化祭	佐潟に関する絵、写真、書、俳句等の作品を募集し展示する。	 	令和2年2月8日（土）～3月1日（日）	応募者数77名、応募点数82作品（写真20点、詩1点、書8点、イラスト8点、赤塚小5年生による佐潟学習をまとめたイラスト45点）	佐潟に魅力を感じている佐潟リピーターや来館者に作品発表の場を提供した。来館者に佐潟の魅力発見や癒しの場として楽しんでもらった。	佐潟水鳥・湿地センター
ウインターコンサートとハクチョウの話	赤塚中学校音楽部のコーラス、ボランティア解説員の佐潟のハクチョウの紹介	 	令和2年2月29日（土）	中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため	佐潟水鳥・湿地センター
早春の佐潟でオカリナコンサート	オカリナコンサートを開催する。	 	令和2年3月7日（土）	中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため	佐潟水鳥・湿地センター